



あおもり創生☆News No.5

◆topics◆

-
- 地域と行政との連携に「学」も参画！
-

～黒石市のまちづくり～

- 「あなたにとってのYES！AOMORI」を見つけてほしい
 - 八戸ブロック校を訪問し、学内の様子を伺いました
 - 学生にきく・・・就職戦線 Before & After
-

◆地域と行政との連携に「学」も参画！～黒石市のまちづくり

～◆

あおもり創生！

今回は、黒石市のまちづくりについての紹介から始めたいと思います。



1- こみせ通りの一角にある工房「IRODORI」のねぶた灯籠

古き良き、趣ある街並みが今もなお残る－黒石市。

その中心部に位置し、古くから商人街として栄えた場所が「中町こみせ通り」です。

その特徴的な景観を大切に、近年では電線の地中化や、銭湯をリノベーションした交流施設、ねぶた絵を再利用した灯籠作りの体験工房などの様々な観光・交流スポットが生まれ、こみせ通りの活性化に一役買っています。



2- こみせの宿「ホテル逢春」夜はライトアップされ幻想的

一方では、観光目的で訪れる人の滞留時間が極めて短いという課題も。

域外からの来訪者にお金を落としてもらうためには、観光の通過点としてではなく、人が長く留まるしくみづくりが必要では？

こうして、宿泊施設を伴った複合的商業施設をつくるという構想が立ち上がりました。

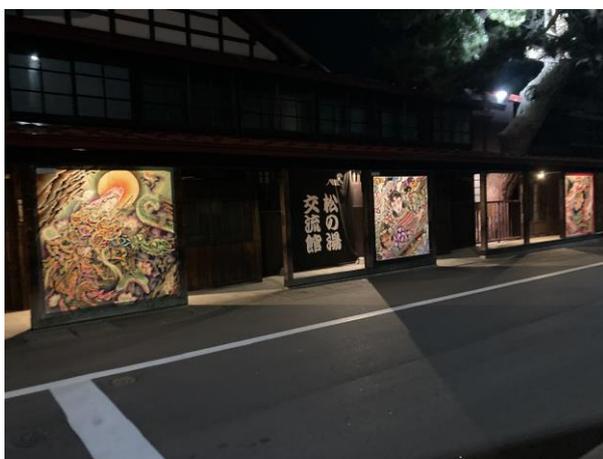
市の「中心市街地活性化基本計画」も後ろ盾となり、商店街振興組合と地元企業がタッグを組んで、ホテルの建設がスタート。



3- 在留留学生対象の「インバウンドツアー」の一コマ

その資金獲得に動いたのは、組合の事務局長でもある市の職員でした。

経済産業省の補助事業を活用し、構想から2年後の2020年、ついにその想いは形に。



4- 「松の湯交流館」

季節毎に通る人々の目を楽しませている



5- こみせ通りにある

通称「理右衛門小路」の風景

今、この施設を核に、夜市の開催や、弘前大学との連携による県内在留留学生を対象としたインバウンドツアーの実施など積極的な取組が行われています。

地域と行政との連携プレーに「学」も参画した、古きを残すだけでなく、現代と融合させ次の世代へとつなげるまちづくり。今後さらなる進展に期待します。

◆「あなたにとっての YES ! AOMORI」を見つけてほしい◆

弘前学院大学で行われた「YES! AOMORI ワークショップ」。主催は県企画調整課。

学生にとって、将来くらし働く場所を選択する際に何を大事にするか考えるきっかけになれば。

「あなたにとっての YES ! AOMORI」を見つけてほしい、と。



文学部のマックウィニー・スティーブン先生と学生、県の工藤倫子さんたちが4グループを編成。

机には「憧れの職業に就く」「仕事と家族との両立」「人と人とのつながり」「趣味を堪能」など、50枚のカードが置いてある。

1人に5枚ずつ配られ、残ったカードを1枚ずつめくっては、自分で大事にしたいカード5枚を手元に。

最後手元に残ったものを優先順に並べ、どの場所(青森、東京、どちらでも)なら実現できるかを考える。





次に40代になった時の自分。どこに住んで、どんな風に働いて、どんなくらしぶりをして
いるか？

想像してみたうえで再度カードゲーム。

終わったら、今と40代の自分を比べてみて、何がどのように変わったか、気づきを発表。



学生が大事にしたい価値観も、それを実現したい場所も十人十色？参加したAさん。「家
族や周りのことに目を向けることが多くなった。考え方の違いに自分でもびっくり」。

B君は「青森について考えるきっかけに。県外に就職して住み続けようかと考えていたが、
スキルを身に着けたら、帰ってきてもよいと思った」と。

学生たちにとって確かに、自分の価値観を確認しながら、地元「青森」に目を向ける機会に
なったのでは。

◆八戸ブロック校を訪問し、学内の様子を伺いました◆

その日は久々の好天。八戸ブロック4校と情報交換のため弘前から八戸へ。

そして車窓から八戸市街の賑わいを眺めているうちに八戸工業大学へ到着。

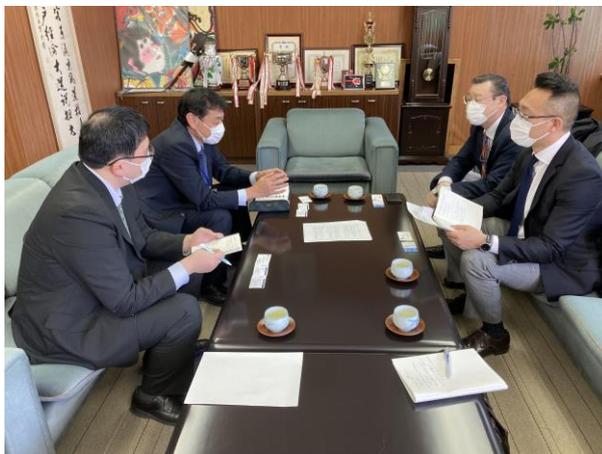
●八戸工業大学では・・・

企業研究会は土曜日にウェブで開催。学生は自宅でも参加できるようにした。

就職説明会は教室でウェブ開催。大勢の中(対面)では手を挙げられなかった学生が質問できるように。

3月の合同企業説明会もウェブで。ブース方式では、学生が集まらない企業も出てくるが、ウェブは気遣いが要らない。企業見学は地元、岩手県北中心に実施。

就職状況は悪くなっていない。県内では本学にしかない建築学科は堅調さを維持。



●八戸学院大学・短期大学部では・・・

個別も合同も企業説明会はウェブで開催。以前、対面(合同)で行っていた際は、40～50社、採用実績のある企業を優先。

個別説明会には、その企業に関心のある学生が集まるので、入社確率は高い。大学の事業として企業見学は行っていないが、八戸市、久慈市からの誘いで参加した例はある。

就職状況は悪化していない。なお昨年春の緊急事態宣言で、関東への就職を考えていた学生には影響が出たようだ。



●八戸工業高等専門学校では・・・

企業内容説明会は3月1日にウェブで開催する。160社参加予定。4年、専攻科1年は希望を聴き、3年は学校主導で1社以上割り当て。

アイデアコンテストは、来年度、「地域貢献」をテーマに実施の方向で検討。

ライフ研究の成果は、まちなか文化祭等のステージで発表(コロナ病棟の医療服、消毒液の使いやすい方法等)。

来年4月の稼働に向けて国際寮を建設中。タイ、モンゴル、ベトナム等との交流進展に期待！



今回ご対応くださったのは八戸工業大学の**大野次長**、**齊藤さん**。

八戸学院大学・短期大学部の**村本課長**、**井上先生**。

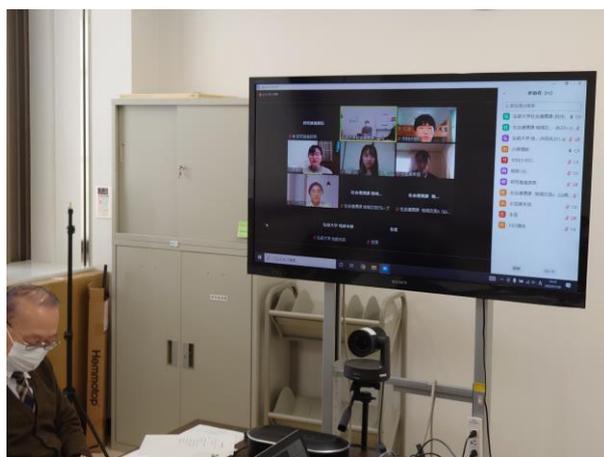
そして八戸工業高等専門学校の**南先生**、**沢村先生**、**庭瀬先生**、**下山係長**。

コロナ禍の中、各校においてご苦労しながら取り組んでいる様子をお聴きできました。

◆学生にきく・・就職戦線 Before & After◆

今後の学生の就活支援等に生かそうと、弘前大学地域創生推進室が主催し「学生による就職座談会」を実施。

人文社会科学部の森 樹男教授を囲んで(と言っても今回はオンライン)、就職戦線に向かう(Before)3年生2人と就職内定を勝ち取った(After)4年生3人が、思いを語ってくれました。



就職先は以前から県内を希望していた。一度は県外に出てみたい。県外の方が自分のやりたいことができる。など、県内か県外かは別として、共通してみられたのは、仕事が大学での学びや自分の関心事とリンクしていること。

就活のメインは合同企業説明会への参加。首都圏の企業の内定が決まった頃に、県内企業の説明会が行われる。開催時期を早めてくれれば。

県内企業のインターンシップは対面で数日間に及ぶことも。1日数時間の中で、会社の説明と業務体験ができるようにしてハードルを下げしてほしい。

大学のキャリアセンターにある「就職活動報告書」は役に立った。面接の練習や履歴書の添削を受けられ助かった。また、ゼミ内の就職相談会で聞いた先輩の話が一番参考になったので、そうした機会が増えればいい・・といった要望も。

4年生から3年生へ。就職が決まるまで不安だが、周りに流されず、自分を見失わないで。就活サイトに登録しすぎると収集がつかなくなり兼ねない。メインサイトを選んでおいた方がよい、などのアドバイスがありました。

参加してくれた学生の皆さん。濃厚な90分でした(感謝)。

◆編集後記◆

大晦から正月にかけて日本列島を襲った大雪。

そして全国に急拡大する感染症とその影響。

今年も厳しい一年になることが実感されます。

ニュースレターの外での取材も残念ながら、当分の間自粛せざるを得ない状況に。

今回は、これまで書き溜めていた材料を中心に編集しましたが、「予習」「前倒し」は仕事にも大事であることを痛感！！

ともあれ、皆さまのご支援・ご協力により、5回目の発信にこぎつけられました。

複数の方から「ニュースレターを楽しみにしている」とのお声を頂戴し、感謝しております。

逆に「辛口の注文」があれば今後に活かしてまいりますので、何とぞよろしく願いいたします。

【編集責任者 弘前大学 社会連携課 須田 誠一】